

畑作・野菜・花き生産情報 第1号

令和6年4月18日
青森県「農林水産力」強化本部

- ◎ この時期の農作物は、降霜等の影響を受けやすいので、週間天気予報などに十分注意し、適正な栽培管理に努めよう！
- ◎ 小麦の生育は、平年並から平年より早まっています。適期の追肥と病害虫防除で収量・品質を確保しよう！
- ◎ にんにくの生育は、平年並から平年より早まっています。適期の追肥とさび病、春腐病等の防除を徹底しよう！
- ◎ ながいもは、掘り遅れによる品質低下を防ぐため、計画的に作業を進めよう！
- ◎ 施設内の温度変化が激しい時期です。適正な管理により高品質な花きの生産に努めよう！

消雪及び根雪の状況

- 1 黒石市の消雪日は3月14日で平年より7日早く、根雪期間は87日間で10日短かった。
- 2 六戸町の消雪日は1月22日で平年より50日早く、根雪期間は41日間で35日短かった。

表－1 消雪及び根雪の状況

場 所	年 次	初 日	終 日	消雪日	根雪期間
農林総合研究所 (黒石市)	本年	12/18	3/13	3/14	87
	平年差	(4日遅)	(7日早)	(7日早)	(10日短)
	平年	12/14	3/20	3/21	97
	前年	12/1	3/16	3/17	106
野菜研究所 (六戸町)	本年	12/12	1/21	1/22	41
	平年差	(14日早)	(50日早)	(50日早)	(35日短)
	平年	12/26	3/11	3/12	76
	前年	12/18	3/13	3/14	86

注) 平年値は農林総合研究所が過去18か年、野菜研究所が平成3年度～令和2年度の30か年の平均値

畑作物

1 小麦

(1) 生育状況(4月10日現在)

- ア 幼穂形成期は平年より2日遅～10日早くなっており、おおむね3月末に到達している。
- イ 草丈は平年並～大幅に長く、莖数は地点によるばらつきが大きくなっている。
- ウ 雪腐病、うどんこ病等の発生は極めて少ない。

表－２ 小麦の越冬後の生育状況（４月10日現在）

場所	年次	ネバリゴシ			キタカミコムギ		
		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	幼穂形成期 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	幼穂形成期 (月/日)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年	17.7	1,003	3/30	20.5	751	3/31
	平年差・比	102%	93%	(8日早)	98%	76%	(10日早)
	平年	17.4	1,079	4/7	21.0	991	4/10
	前年	15.4	681	3/31	17.5	650	4/3
野菜 研究所 (六戸町)	本年	29.9	1,420	3/26	/		
	平年差・比	131%	104%	(2日早)			
	平年	22.9	1,365	3/28			
	前年	29.1	1,194	3/20			
つがる市 (木造)	本年	24.6	1,881	3/25	26.9	1,133	3/25
	平年差・比	123%	214%	(2日遅)	117%	132%	(4日早)
	平年	20.0	879	3/23	23.0	861	3/29
	前年	28.9	1,000	3/17	42.2	693	3/19
十和田市 (相坂)	本年	19.2	1,244	4/1	/		
	平年差・比	102%	88%	(2日遅)			
	平年	18.8	1,416	3/30			
	前年	22.7	1,746	3/23			

注) ①農林総合研究所、野菜研究所が作況試験ほ、つがる市(木造)、十和田市(相坂)が生育観測ほの調査成績

②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」の草丈及び茎数が過去17か年、幼穂形成期が過去18か年、野菜研究所の「ネバリゴシ」が過去15か年(24年産(出芽不良)を除く)、つがる市(木造)が過去13か年、十和田市(相坂)の「ネバリゴシ」が過去13か年、つがる市(木造)の「キタカミコムギ」が過去28か年の平均値

(2) 今後の留意点

ア 転作田では、停滞水による湿害を防止するため、排水溝や明きよの点検補修を行い、ほ場の排水に努める。

イ 本年は生育が早まっているほ場が多いため、作業適期を逸しないよう留意する。止葉抽出期、出穂期、開花期のステージ到達日は、令和5年度参考となる研究成果「幼穂長を用いた小麦生育ステージの予測方法」(青森県庁ホームページ(https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/nosui/hukuugijutu_hatamokuji.html))を検索)で予測することができる。

ウ 2回目の追肥は、タンパク質含量を高めるために止葉抽出期から出穂期の間、茎葉の繁茂状況や葉色等を勘案して窒素成分で10a当たり2～4kgの範囲で実施する。

なお、ネバリゴシの追肥の判断基準は、図1のネバリゴシ追肥の要否及び追肥量の判定チャートを参照する。

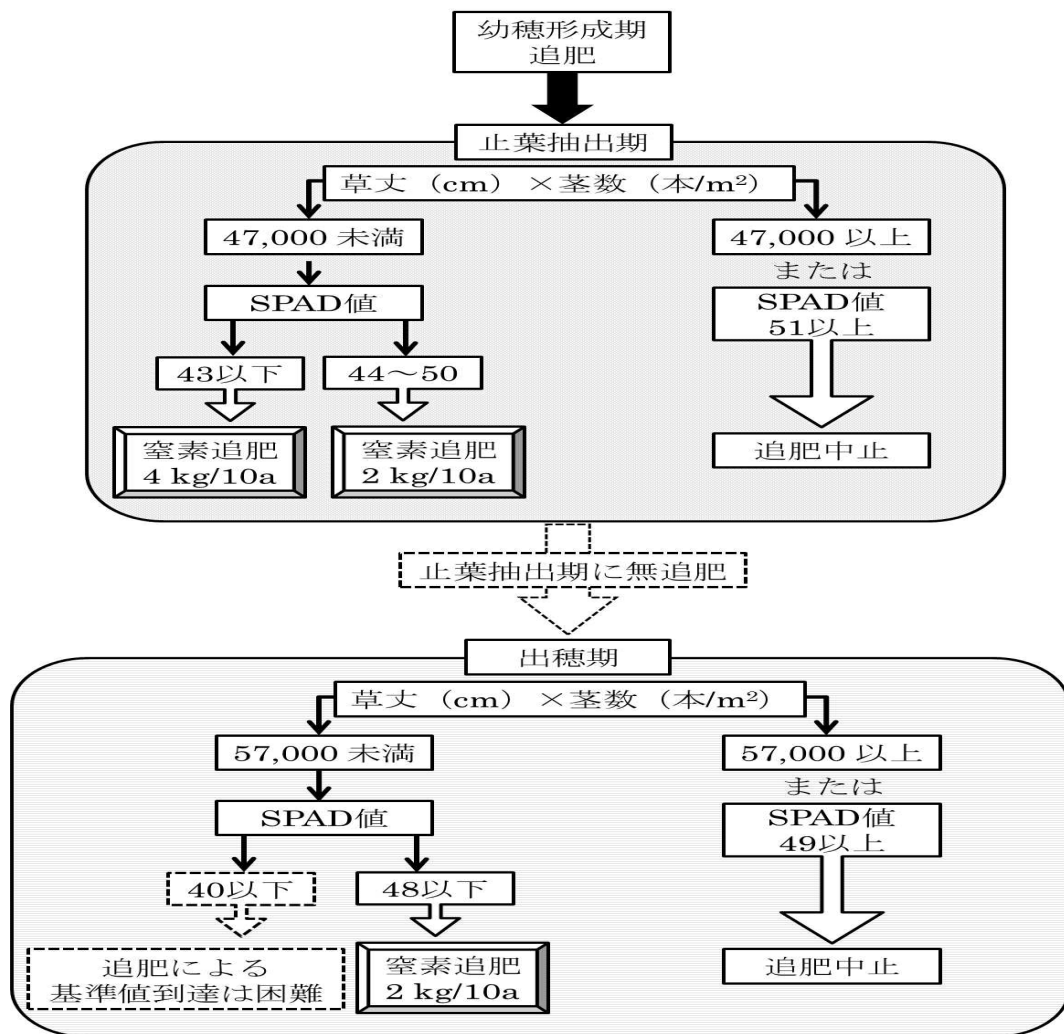


図1 ネバリゴシ追肥の要否及び追肥量の判定チャート

エ 例年、ネバリゴシが2回追肥体系でたんぱく質含量が基準値に達しない場合は、穂揃期に以下の式で生育診断値を求め、表-3により葉面散布を行う。

$$\text{生育診断値} = \frac{\text{穂揃期の草丈 (cm)} \times \text{穂揃期の葉色値 (上位 2 番目を SPAD-502 で測定)}}{\text{穂数 (本/m}^2\text{)}}$$

表-3 穂揃期の生育診断値と追肥対応

診断値	散布量と時期
5.5~7.5未満	尿素4%液 (110L/10a) を開花期と開花期7日後頃
7.5~9.5未満	尿素2%液 (110L/10a) を開花期と開花期7日後頃
9.5以上	追肥中止

オ うどんこ病の防除は、止葉直下葉での発生直後に薬剤散布を行うと効果的である。

カ 赤かび病は、収量や品質の低下をもたらすばかりでなく、カビ毒を含むため、赤かび粒の混入割合が1万粒あたり4粒を超えると流通できなくなる。防除は、図2を参考に、開花始めから開花期に1回目の防除を行い、その7日後に2回目の防除を行う。2回目の防除後、天候不順が続き蔓延のおそれがある場合は追加防除を行う。

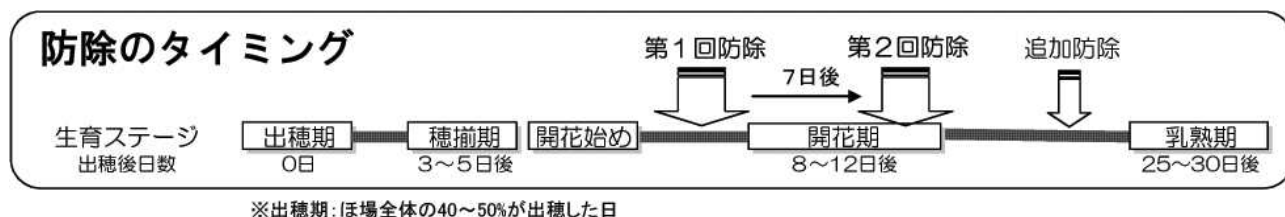


図2 赤かび病防除の薬剤散布時期

野菜

1 にんにく

(1) 生育状況

ア 越冬前の生育が平年より進んだことや、消雪が平年より早く、3月下旬以降、気温が高めに推移したことから、越冬後の草丈、葉数は、平年並か平年を上回っている。

イ りん片分化期は、平年より3~5日早く到達し、最も早い地点では4月14日となっている。

ウ 病害虫の発生は、確認されていない。

表-4 にんにくの生育状況 (4月10日現在)

調査地点	年次	植付期(月日) (±0日)	4月10日				りん片 分化期 (月日)	備考
			草丈 (cm)	葉数 (枚)	茎径 (mm)	欠株率 (%)		
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年差・比)	10/2 (±0日)	57.9 (128%)	8.9 (129%)	19.5 (135%)	-	4/14 (5日早)	透明マルチ
	平年	10/2	45.3	6.9	14.4	-	4/19	
	前年	9/30	56.7	9.2	17.4	-	4/8	
藤崎町 福島	本年 (平年差・比)	9/29 (9日遅)	30.8 (118%)	4.0 (98%)	-	9 (529%)	未	黒マルチ
	平年	9/20	26.1	4.1	-	1.7	4/22	
	前年	9/20	32.2	4.0	-	2	4/13	
七戸町 榎林	本年 (平年差・比)	10/17 (18日遅)	31.1 (100%)	4.8 (108%)	-	0	未	グリーンマルチ
	平年	9/29	31.2	4.4	14.4	0.4	4/18	
	前年	9/29	33.7	4.9	11.8	0	4/15	
田子町 日ノ沢	本年 (平年差・比)	9/30 (6日早)	44.9 (135%)	5.5 (120%)	14.4 (104%)	0 (0%)	4/14 (3日早)	グリーンマルチ
	平年	10/6	33.2	4.6	13.8	1	4/17	
	前年	10/2	45.1	6.4	14.6	0	4/10	

注) ①平年：野菜研究所は平成22~令和5年の14か年の平均値

藤崎町は令和2年~令和5年の4か年の平均値 (令和4年植付けから担当農家が変わったため参考値)

七戸町は平成26年~令和5年の10か年の平均値

- 田子町は平成26年～令和5年（令和2年を除く）の9か年の平均値
- ②種子：野菜研究所は福地ホワイト（13～14g）、藤崎町は白玉王（12g前後）、
七戸町は白玉王（12～16g）、田子町は白玉王（10～12g）
- ③葉数：野菜研究所は抽出葉数、藤崎町・七戸町・田子町は生葉数

（2）今後の留意点

ア 排水対策

排水が悪いほ場では、明きよを設置するなど排水対策を講じる。

イ マルチの補修

風などでマルチが浮き上がったり、剥がれている箇所は早めに補修する。

ウ 適期追肥の励行（追肥体系の場合）

2回目の追肥は、10a当たり窒素成分で5kgを目安に、りん片分化期に到達したら以下の時期に行う。

2回目の追肥時期：透明マルチ・・・りん片分化期後10日ごろ

黒マルチ・・・りん片分化期～りん片分化期後10日ごろ

エ 除けつ

1株に複数萌芽した株は、株の分離を確認後、株元の土を掘り、生育の良い方を残すように押さえ、他を引き裂くようにして抜き取る。

ただし、採種ほ場では抜き取りを行わず、そのまま生育させる。

オ 病虫害防除

さび病、春腐病の防除を徹底するとともに、春腐病の被害株は抜き取って処分する。

2 ながいも

（1）作業状況

春掘り作業は平年並の3月中旬から始まっているが、一部では2月下旬から3月上旬の降雪の影響で始まりが10日程度遅れている地域もある。

（2）今後の留意点

ア 掘取りは、作業条件の良いほ場から順次進め、芽が動くなどの品質低下を防ぐため、4月末までに作業を終える。

イ トレンチャー耕は、穴落ちなどを防ぐため適正速度を守る。

ウ 種いもは、栽培法に合わせて準備するとともに、早植栽培では4月下旬から5月中旬に植付けする。

表－5 ながいも栽培法別の種いもの種類と重さ

栽培法	植付時期	種いもの種類	頂芽	重さ(g)
早植栽培	5月上旬	1年子	有り	35～45※
	4月下旬～5月中旬	1年子	有り	50～100
普通栽培	5月中旬～6月上旬	1、2年子	切除	100～150
	5月下旬～6月上旬	切いも	切除	120～150

※早植栽培の50g未満の頂芽付き小種子は、ウイルスフリー由来のものを使用する。

3 トンネルだいこん、にんじん

(1) 生育状況

2月下旬から3月上旬の降雪の影響で、は種作業は、だいこんが平年より9日、にんじんが平年より13日遅い3月下旬から始まった。

だいこんの発芽は良好である。

表－6 春だいこんの生育状況（4月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	備 考
おいらせ町 内山平 (旧百石町)	本年 (平年差・比)	3/28 (9日遅)	透明ポリマルチ +透明ポリトン ネル
	平年	3/19	
	前年	3/16	

注) ①平年:平成26年～令和5年の過去10か年の平均値

②品種:春の星

表－7 春夏にんじんの生育状況（4月7日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	備 考
六戸町 上吉田	本年 (平年差・比)	3/26 (13日遅)	べた掛け栽培（平年はポリトンネル栽培であるが、降雪によりトンネル栽培のタイミングを逸したため）
	平年	3/13	
	前年	3/15	

注) ①平年:平成26年～令和5年の過去10か年の平均値

②品種:彩誉7

(2) 今後の留意点

トンネル栽培では、好天時に換気する等、生育ステージに合わせた適正な温度管理に努める。

4 トマト、メロン

(1) 生育状況

苗の生育は順調である。

(2) 今後の留意点

ア 苗は、定植に向けて徐々に気温を下げて管理し、順化する。

イ 計画的にほ場準備を進め、土壌水分が好適な時期にマルチングを行い、地温の確保に努める。

ウ 苗が老化しないよう適期定植に努める。定植が遅れ、苗が肥料切れを起した場合は、薄めた液肥を与えるなどの対策を講じる。

エ 降霜が予想される時や低温時には、二重被覆や暖房器具等で保温に努める。

花 き

1 夏秋ギク

(1) 生育状況

8月上旬出荷の作型は、平年並の4月中旬から定植作業が始まっている。苗の生育は順調で、病虫害の発生は見られない。

(2) 今後の作業

ア 親株の管理

- ・日中の気温が25℃以上にならないよう換気する。
- ・老化を抑えるため極端に乾燥させず、花芽が分化しないよう電照またはエテホン剤の散布を行う。

イ 定植の準備

- ・病虫害の発生を防止するため、ほ場周辺の除草のほか、ハウス内の残渣を除去する。
- ・定植後の活着を促すため、ほ場の水分と地温を確保する。
- ・挿し芽は定植2週間前に行う。挿し芽後は十分かん水し、日射が強い時期は発根するまで遮光率50%程度の資材で被覆して日中のしおれを防ぐ。

ウ 定植

- ・挿し芽苗の発根が根長1～2cmのときに定植する。
- ・8月上旬出荷の作型は、定植を5月上旬までに行う。
- ・直挿し栽培の場合は、ほ場へ直接挿し芽をした後、すぐに十分にかん水する。

エ 定植後の管理

- ・4月から5月は、天候が不安定でハウス内の温度変化が激しい時期なので、ハウスの開閉をこまめに行い、15～25℃を目標に適正な温度管理に努める。
- ・低温や降霜が予想される時は、加温や被覆資材での保温を行う。

2 トルコギキョウ

(1) 生育状況

春定植における苗の生育は、一部ばらつきがあるもののおおむね順調で、病害虫は一部にキノコバエ類の発生が見られる。また、越冬栽培で、一部に土壤病害の発生が見られる。

定植作業は3月下旬から始まり、順調に進んでいる。

(2) 今後の作業

ア 育苗

- ・は種直後は発芽適温である20～25℃で管理し、発芽が揃った後は徐々に温度を下げ、15～20℃で管理する。
- ・育苗中は、用土が乾燥しないように適宜かん水する。

イ ほ場の準備

- ・事前にはほ場へ十分かん水しておき、土壤水分を見ながら定植2週間前までに施肥
 - ・耕起する。
- ・施肥は、土壤診断に基づき実施する。なお、土壤消毒を行ったほ場では、生育が旺盛になる恐れがあるので、施肥量を減らす。
- ・活着促進のため、早めにマルチを張り、定植までに地温を確保する。

ウ 定植

- ・8月上旬出荷の作型は、定植を4月下旬までに行う。
- ・老化苗は生育が劣るので、展開葉4枚までの苗を定植する。
- ・定植は深植えとせず、また、株元を強く押さえないようにする。定植後は、苗と土をなじませる程度に軽くかん水する。

エ 定植後の管理

- ・発らいまでは乾燥させないように適宜かん水する。
- ・温度は、日中は25℃以下、夜温15℃程度を目標に管理する。低温時には、トンネル、カーテン等により保温に努める。
- ・追肥は、生育の状況を見ながら、発らい期頃までに液肥で行う。

畑作・野菜・花き生産情報第2号は令和6年5月20日発行の予定です。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～
土壤診断に基づく適正施肥や土壤改良は、施肥コストの低減にもつながります。
緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壤環境づくりを心がけましょう！
効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬を使用する際は、必ず最新の登録内容を確認し、適正に使用しましょう。
 - 農林水産省「農薬情報」
https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/
 - 農林水産省「農薬登録情報提供システム」
<https://pesticide.maff.go.jp/>
- 2 飛散防止に努め、住宅地等の近隣で使用する際は、事前に周囲に知らせましょう。
- 3 クロルピクリン剤など土壤くん蒸剤を使用する際は、必ず厚さ0.03mm以上又は難透過性の被覆資材で被覆しましょう。
- 4 市販の除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「農薬ではない除草剤（農

薬ではない、非農耕地専用などと記載)」があるので、注意しましょう。

- 5 農薬は使い切りを徹底し、河川等には絶対に捨ててはいけません。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

- 1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。
- 2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。
家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が3日以上続いている状態が必要です。
堆肥の製造工程では、この温度条件を確認しましょう。
- 3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は2か月、土壌に近い野菜は4か月空けましょう。
- 4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。

※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら

→https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/yasai_eiseikanri.html



◎備えあれば、憂いなし！ 農業保険を活用しましょう！

自然災害や価格下落など、農業経営を取り巻く様々なリスクに備えるため、自分の経営にあった農業保険(国などが掛金の一部を補助する公的保険制度)を活用しましょう。

- 1 自然災害リスクをカバーしたい方
農業共済(農作物共済・畑作物共済・園芸施設共済)は、全ての農業者を対象に、米、麦、畑作物、農業用ハウスなどが自然災害によって受ける損失を補償します。
※ナラシ対策や野菜価格安定制度等を利用することもできます。
- 2 様々なリスクをカバーしたい方
収入保険は、青色申告を行っている農業者を対象に、自然災害や価格低下だけではなく、農業者の経営努力では避けられない収入減少を広く補償します。
※ 詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

◎春の農作業安全運動を展開中です(4月1日～5月31日)

春の農作業が本格化する4～5月は、一年の中でも農作業事故が多くなる時期です。農作業安全のポイントを意識しながら、「焦らず、急がず、慎重に。」を合言葉に、地域ぐるみで声を掛け合い、安全第一で農作業事故をなくしましょう。

<農作業安全のポイント>

- 1 慣れた作業でも油断せず、安全を確認して、作業を行いましょ。
- 2 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょ。
- 3 自分は「大丈夫」と過信せず、無理のない作業を行いましょ。
- 4 一人での作業は避け、やむを得ず一人で行う場合は、家族に作業場所と帰宅時間を伝え、携帯電話を持ちましょ。
- 5 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼び掛け合いましょ。
- 6 万一の事故に備えて、労災保険や農機具共済などの保険に加入しましょ。

☆青森県総合防除計画を策定しました☆

県では、植物防疫法に基づく国の「総合防除基本指針」に即して、化学農薬のみに頼らない病虫害防除を行うための計画「青森県総合防除計画」を定めました。農作物の高品質生産とコスト低減に向けて、みんなで総合防除に取り組みましょ。

<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/8140>



連絡先	農産園芸課
	稲作・畑作振興グループ
県庁内線	5073
直通	017-734-9480
	野菜・花き振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9481
